

# 年頭に あたって

## 次世代が夢と希望の持てる村へ

下條村長 伊藤喜平



明けましておめでとうございませう。希望に満ちた新春を迎え、皆様方の御健康と御多幸をお祈りいたします。

さて、昨年を振り返る時、正に一瞬のうちに過ぎ去った感じがいたします。これもグローバル社会の時代、全てが地球規模の中で考え決断していかねければならない変化の激しい社会が定着したからと思います。

こうした時、我が国も政権が変わり、まず財政の健全化を第一に掲げ「アベノミクス」を中心に据え数々の施策を打ち出しています。その成果も、徐々にではありませんが、感じられるようになってい

ます。こうした時私達は唯の傍観者でなく、責任ある国民の一人として、「今この時に何をすべきか」の積極的な協力をいただき、次の世代の皆さんが、夢と希望の持てる社会にしていただく絶好の機会と考えています。

當下條村も、村民の皆様が主役で今日まで頑張つて来られました。年末に配布いたしました「村の十大ニュース」にお示しした様に、財政の健全度は全国四位が四年連続でしたが、今年は三位と全国から更に注目される村となりました。こうした財政基盤を基に、出費の増大する事が予想される中で、子育て、教育、産業活性化、長寿化時代の福祉医療等により積極的に対応して参ります。

又小学校の「プール」「武道センター」も三月に完成し、教育環境のより充実を計りました。今最大の話題は「リニア」です。完成まであと十二年となりました。このトンネル工事で排出される土

砂を「道の駅」の国道筋の谷間に埋め、出来る広大な土地を、新たな下條の発展の拠点となる様計画しています。

更に国道粒良脇トンネルも新たな計画も出来あがり、今年には地権者の皆様にお願ひし、土地買収に入る予定です。

県道、天竜公園阿智線も、いよいよ最後のトンネルが完成し、春には全線開通となります。

長寿化社会に対応する福祉施設も、昨年は北又地籍に一ヶ所、今年には役場入口辺りにも完成します。

暗い話題が多い中、当村は国・県・関係の皆様のご格別なる配慮、そして何よりも全村民の力強い御協力により、希望も持てる村に変貌しつつあります。

この事に心から感謝申し上げます、今年が更に良き年でありませう様お祈りいたし、新年のごあいさつをいたします。

## 住んでて良かった下條村

下條村議会議長 宮嶋清伸



平成二十七年の輝かしい新春を迎え、村民の皆様にご挨拶を代表して謹んで年頭のあいさつを申し上げます。また、日頃は議会活動に対し暖かいご支援とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

下條村は明治二十二年に誕生して一二五周年を迎え財政力が全国で第三位となり益々注目される村となり、テレビなどで紹介されるたびに視察に訪れる方々が年々増え、今まで来村された自治体が四七〇を超え全国からうらやまれる村になりました。

二〇二七年（十二年後）飯田市にリニアの駅ができることは、この地域にとって千載一遇のチャンスであり、このチャンスをどう生

かすか住民の方々と真剣に議論しなくてはなりません、そして魅力があり海外や全国から人が集まり活力ある地域にしなければなりません。

さて、年末の衆院選では与党の自民、公明両党が圧勝し第三次安倍政権が発足しましたが、地方までアベノミクスが浸透し、住民が安心して生活できる国づくりを期待するものです。

国、県においては依然として厳しい財政状況下であり、国の借金が一千兆円を突破しました。そんな中、医療費の高騰、高度成長期に建設されたインフラの老朽化対策が急務となり、今後ますます住民の生活コストが増してまいりますが、下條村では伊藤村長の長年の行政手腕により七五歳以上の高齢者の医療費自己負担分の半額補助、七〇歳から七四歳までの高齢者の医療費自己負担分の三分の一補助、住宅のリフォーム・耐震工事、若者定住促進として新・増

改築の補助など幅広い施策を継続すると共に、待望の小学校のプールと武道センターが完成して、教育環境の充実を図りさらに住みやすい下條村をめざしております。

議会も、行政のチェック機能だけでなく、勉強会をはじめ各種研修会に積極的に参加して議員の資質向上を図り提案型の議会を行い住んでてよかった下條村づくりに取り組んでまいります。

本年が皆様にとって平穏で実り多い年でありませうお祈りして、年頭のあいさつをいたします。

